

活動成果報告書

「世界に開かれた多面的日本研究の実践」立命館・SFC 合同研究プロジェクト

文責：環境情報学部4年 小山有志

■ 開催概要

日時：2019年2月2日(土) 午前9時～午後21時

場所：立命館大学梅田キャンパス

参加人数：教員1名、学部生12名

共催：政策科学部上久保誠人ゼミ（競争力養成ゼミ）

■ 目的

日本の近代・現代における政治外交を主題とした研究を政策科学部上久保誠人ゼミ（競争力養成ゼミ）（以下、上久保ゼミ）の学生とSFCの学生が互いに発表しあい、①個人研究テーマに関する発信・受信を行うこと、②より多面的に捉える視点・思考の枠組を獲得・共有し、課題の再発信を促すこと、③同世代の交流・発信の拠点をづくり、継続した相互理解の場を構築することの3点を本活動の目的とする。

■ 実施内容

上記の目的を達成するため、両校が企画した以下の3つのコンテンツを実施した。

①口頭発表

両校の代表者2名ずつが個人研究について口頭発表を行った。「防災拠点としてのパチンコホール」「SEA (Social Engaged Art)」「部活動指導員制度」など、両校共に独自性の強い研究が多く、知見を広めた。さらに、個別事例のサーチにとどまらず政策波及論にも話が及び、研究内容を社会に還元するためにはどのようにすべきかと想いを巡らす白熱した議論となった。

②ポスター発表

事前に作成したポスターをもとに、16人が発表を行った。今月中に政策提言予定の「IR法案」に関する発表や、「道州制×外資企業誘致」など、口頭発表に続きユニークで興味深いテーマばかり。1回の発表時間は短いものの、聴き手との距離が近いフラットな環境下で、様々な意見が飛び交い充実した議論となった。また、研究内容のみならずポスターの構成やデザインにおいても、良い刺激を受けることができた。

③ディベート

4つのグループに分かれ、学校対抗の少人数ディベートを実施した。テーマは「大阪都構想の是非」と「2020年オリンピックへの学生ボランティア参加による単位付与の是非」と、時事性・地域性を考慮したテーマを取り上げた。普段から独自の手法でデ

イベント力を高めている政策科学部上久保誠人ゼミ生は、高いリサーチ力と説得力を持たせる話しぶりで、個人研究を主たる活動とする清水研にとって、大きな学びとなった。それはまさに「道場破り」と呼ぶに相応しい貴重な経験となった。

■ 総括

本年度で4回目となる合同ゼミは、同世代の交流・発信の拠点として着実に根付きつつあります。これまでも他校や他学部ゼミとの合同ゼミを実施してきましたが、とりわけ今回の合同ゼミ開催先である政策科学部上久保誠人ゼミは、清水研究会とは異なる特色を有しており、合同ゼミ開催先として最適であると考えています。今回も研究の切り口や鋭い視点など、様々な点において学びの多い有意義な時間となりました。こうした場を開催できるよう支援して下さった湘南藤沢学会に感謝申し上げます。また今年度は、毎年発行している『日本政治外交研究』に研究成果をまとめるほか、清水研究会所属3年の高橋侑也、江藤杏莉がSFC Open Research Forumの個人研究発表大会に出場するなど、湘南藤沢学会の活動に寄与してまいりました。これらの活動成果を活かして来年度の研究報告に臨んでいきたいと思っており、今後こうした刺激的な機会を継続できるよう努めてまいります。